

第 36 期
事業報告並びに決算報告書

(2025 年度)

自 2025 年 4 月 1 日
至 2026 年 3 月 31 日

公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団

目次

【1】 第36期（2025年4月～2026年3月度）事業報告

◇ 法人の状況に関する重要な事項及び公益目的事業の実施状況

1 概要	1
2 活動内容	
（1） 第34回(2025年度)ヘルスリサーチ研究助成事業	1
（2） 第32回(2025年度)ヘルスリサーチフォーラム及び2025年度研究助成贈呈式	2
（3） 財団活動の実績と課題の把握	7
（4） 広報活動の見直し	7
（5） 寄附金募集活動	7
3 運営に関する事項	
（1） 評議員・理事・監事・選考委員及びその他委員に関する事項（2026年3月31日現在）	7
（2） 評議員会・理事会・監査会・選考委員会に関する事項	9
（3） オフィスに関する事項（2026年3月31日現在）	11
（4） 登記・届出に関する事項	11

◇ 法人の運営体制の充実を図るための取組

1 外部理事・外部監事の設置への対応	11
2 法令等遵守体制、ガバナンスの自主的・自律的な取組	11

【2】 第36期（2025年4月～2026年3月度）決算

財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書）及び財産目録	12
1 貸借対照表	13
2 正味財産増減計算書	14
3 正味財産増減計算書内訳表	16
4 財務諸表に関する注記	18
5 附属明細書	20
6 財産目録	21

【1】第36期（2025年4月～2026年3月度）事業報告

◇ 法人の状況に関する重要な事項及び公益目的事業の実施状況

1 概要

当財団は、ヘルスリサーチの振興を目的として、ヘルスリサーチ研究者への助成事業を中心とした活動を行っている。

第36期（2025年度）の事業計画・収支予算は、2025年3月25日に開催された「第49回理事会」の承認を得て実施された。事業計画は、以下のとおりであった。

- (1) 第34回（2025年度）ヘルスリサーチ研究助成事業
- (2) 第32回（2025年度）ヘルスリサーチフォーラム及び2025年度研究助成贈呈式
- (3) 財団活動の実績と課題の把握
- (4) 広報活動の見直し

上記のうち、(1)及び(2)については、予定通り実施することができた。(3)については、財団ホームページに掲載しているアンケート回答結果並びに過去の研究助成応募資料に基づき、これまでの実績について簡易版を報告書として取りまとめた。また、(4)については、当期では完了せず、引き続き来期にて実施することとなった。

第36期（2025年度）の事業実施に伴う決算の概要は、次のとおりであった。

経常収益は10,114万円であった。内訳は、基本財産からの運用収益4,924万円、出捐企業からの指定寄附金総額2,500万円などであった。

「事業費」に関しては最重点事業である研究助成事業費は、4,814万円（うち支払助成金4,428万円）であった。その他、ヘルスリサーチフォーラム関連費3,002万円（うち、会場費696万円、機材費466万円、運営人件費856万円）、ホームページ関連費63万円等となり、「事業費合計」は、総額9,132万円であった。

「管理費」は、総額1,355万円となり、第36期の事業費と管理費の合計である「経常費用計」は、1億486万円であった。

指定正味財産期末残高は22億4,571万円で、一般正味財産期末残高については5億6,160万円となり、正味財産期末残高の総額は、28億730万円となった。

期末基本財産は、普通預金1億2,941万円、定期預金1億2,784万円、有価証券23億9,159万円で、合計26億4,884万円となった。

2 活動内容

(1) 第34回（2025年度）ヘルスリサーチ研究助成事業

国際共同研究は、1件当たり300万円以内（8件程度）、国内共同研究（年齢制限なし）は、1件当たり130万円以内（14件程度）、国内共同研究（満39歳以下）は、1件当たり100万円以内（14件程度）と、前年度と同規模の助成計画にて実施した。応募総数は、対前年比で約6割増の163件であった。

選考の結果、国際共同研究8件、国内共同研究（年齢制限なし）14件、国内共同研究（満39歳以下）10件、合計32件（対前年比約3%増）が採択された。各カテゴリーの全助成案件については別添資料のとおりである。

< 応募状況並びに採択結果 >

() : 前年度、金額 : 万円

	<u>応募件数</u>	<u>採択件数</u>	<u>助成金額</u>
国際共同研究	51 (26)	8 (10)	2,097 (2,663)
国内共同研究 (年齢制限なし)	75 (43)	14 (12)	1,497 (1,185)
国内共同研究 (満 39 歳以下)	<u>37 (31)</u>	<u>10 (9)</u>	<u>834 (815)</u>
<u>合計</u>	<u>163 (100)</u>	<u>32 (31)</u>	<u>4,428 (4,663)</u>

< 公募状況 >

2025年4月21日 ～ 6月30日 公募期間

財団ホームページにて公募案内を掲載するとともに、リーフレットを全国の大学各学部（医学部、薬学部、歯学部、保健学部、社会福祉学部、看護学部、経済学部、法学部等）及び学会、研究機関、報道機関、厚生労働省、過年度の助成者等、約6,000部送付。また、関係学会の機関誌等に公募案内広告を掲載。医療経済研究機構機関誌にて公募案内広告を無料掲載（4月号～6月号）

< 選考日程 >

2025年 8月 9日	選考委員長による予備選考
8月10日 ～ 9月22日	選考委員 書面審査
9月22日	選考委員 選考結果回答期限
10月 2日	第88回選考委員会－書類選考による助成案件の決定
10月24日	選考委員長より理事長への助成案件の選考・決定の答申
10月25日	理事長が全理事に対して選考結果を通知 (定款第46条報告の省略)
10月28日	応募者本人への結果通知(書面)
12月 6日	第34回（2025年度）研究助成贈呈式開催
12月 8日～	助成金振込み

(2) 第 32 回（2025 年度）ヘルスリサーチフォーラム及び 2025 年度研究助成贈呈式

本年度は、「分断をつなぐヘルスリサーチ」をテーマとし、旧主務官庁である厚生労働省の後援を得るとともに、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構の協賛を得て開催した。

2025 年度のヘルスリサーチフォーラムでは、2023 年度の国際共同並びに国内共同研究受賞 40 演題のうち 32 演題、また、研究を継続実施されていた 2020～2022 年度の助成研究 6 演題の他、本年度の一般演題公募から選考を経て採択された 1 演題の合計 39 演題の研究成果発表が行われた。午前中にポスターセッションを 7 セッション行い、午後にホールセッションを 1 セッション行った。

本年度フォーラムテーマである「分断をつなぐヘルスリサーチ」に則した外部有識者によるパネル

ディスカッションでは各分野で分断をつなぐことをグローバルに実践している 3 名のパネリストに抛り有意義なディスカッションが行われ、ヘルスリサーチの重要性について振興を図った。

研究助成贈呈式では、2025 年度受賞者 32 名中、来場またはオンラインにて 31 名が参加した。来場者には、中村理事長より、贈呈状が授与された。記念撮影のあと、各受賞者からは助成対象となった研究内容のショートプレゼンテーションが行われ、山崎選考委員長より 3 つのカテゴリーごとに助成研究に関する講評が行われた。

フォーラム終了後には、「情報交換会」を開催し、ヘルスリサーチを通じた受賞者と発表者、またヘルスリサーチの各方面で活躍している来場者、財団関係者との貴重なコミュニケーションの場となった。

<開催概要>

日 時 : 2025年12月6日(土) 9時00分 ~ 20時00分

会 場 : 紀尾井カンファレンス(東京都千代田区紀尾井町)

オンライン : MS Teams Meeting(発表者、視聴者)*Live配信(事前登録者のみ)

テ - マ : 「分断をつなぐヘルスリサーチ」

後 援 : 厚生労働省

協 賛 : 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構

参 加 者 : 研究成果発表者、研究助成受賞者、ヘルスリサーチ研究者、関係官庁、一般参加者、出捐会社役員、財団役員等、約130名(含、オンライン参加者)。

プログラム :

1. 開会挨拶 : 中村 安秀 公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長
2. 来賓挨拶 : 荒木 裕人 氏(厚生労働省大臣官房厚生科学課 課長)
五十嵐 啓朗 氏(ファイザー株式会社 代表取締役社長)

3. 研究成果発表

【セッション1】-ポスターセッション 座長 : 大木 幸子 財団選考委員

≪2023年度助成研究 5題≫

- ① 日本とフランスのユースクリニックに関するアンメットニーズの比較～日本におけるユースクリニック法整備に向けて～
- ② パーソンセンタードケアを促進するための、一般急性期病院看護師を対象とした認知症職場研修プログラムの開発および効果検証
- ③ 日本における心不全患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実態調査
- ④ 地方における小児摂食障害診療の課題と改善
- ⑤ 炎症性腸疾患患者のsexual well-being支援のための医療者教育プログラムと情報資源の開発

【セッション2】-ポスターセッション 座長 : 佐藤 雄一郎 財団選考委員

≪2021年度助成研究 1題≫

- ① 日本人の宗教や信仰心は人生の最終段階における医療・ケアの選好及び話し合いに

どのような影響を及ぼすか

≪2023年度助成研究 4題≫

- ② 災害時トリアージに対する専門家-市民間の理解の乖離についての分析
- ③ 高齢者を支援する先端技術とその法的・倫理的課題の検討
- ④ 全国市民調査に基づく診断エラーの実態、関連要因、及び医学的・医療経済的損失の解明と診断エラー対策の立案
- ⑤ 日本、韓国、台湾における高齢者のスピリチュアルヘルスの比較研究

【セッション3】-ポスターセッション

座長： 姉川 知史 財団選考委員、評議員

≪2021年度研究助成 1題≫

- ① 東日本大震災前後の発達障がい及びストレス障がいの長期推移とその要因に関する疫学研究

≪2022年度助成研究 1題≫

- ② 大規模DPCデータを用いた疫学研究～大気汚染が与える脳循環器疾患発症と医療費の関係

≪2023年度助成研究 3題≫

- ③ 医療経済尺度を内包した頭痛日記型個人健康記録の開発
- ④ 神奈川県みらい未病コホート研究を活用した生活習慣と認知機能に関する観察研究
- ⑤ DPC、レセプトデータを用いた抜管後肺炎のリスク要因の検討

【セッション4】-ポスターセッション

座長： 坂巻 弘之 財団選考委員、理事

≪2020年度助成研究 1題≫

- ① 開発途上国における入国地点での人及びベクターサーベイランス強化による新興感染症対策に関する国際共同研究

≪2023年度助成研究 4題≫

- ② インターネット上の麻薬および大麻情報の検索行動解析と信頼性評価
- ③ 再発性下気道感染症における抗緑膿菌活性をもつ抗菌薬の経験的使用の有効性の検討：データベース研究
- ④ 高品質な医療実践を加速する国内医学共同研究における障壁の可視化
- ⑤ がん薬物療法の有害事象の早期発見を目指したモバイルヘルスケアプログラムの構築

【セッション5】-ポスターセッション

座長： 平野 かよ子 財団選考委員、評議員

≪2023年度助成研究 5題≫

- ① 子どもを突然死で亡くした親が抱く悲嘆ケアに対するアンメットニーズの探索的質的研究
- ② 統合失調症スペクトラム障害患者の周術期精神症状悪化予測スコアリングモデルの作成と検証
- ③ 乳幼児患者における有害事象を、包括的に把握するための保護者・介護者観察ツールの開発
- ④ 重症心疾患・心臓移植患者への高度看護実践の評価法開発
- ⑤ 認知症高齢者とその家族介護者がQOLを保ちながら在宅での生活を継続できる要因の探索

【セッション6】-ポスターセッション 座長： 梶井 英治 財団選考委員

≪2021年度助成研究 1題≫

- ① 地域医療体制構築のための自殺と健康問題の空間疫学研究

≪2022年度助成研究 1題≫

- ② 非アルコール性脂肪肝疾患患者における認知行動療法によるライフスタイル変容効果の検証

≪2022年度助成研究 3題≫

- ③ 声の韻律変化と時空間歩行因子を併用した運動器慢性疼痛の客観的評価指標
④ 医療現場におけるメンタルヘルス支援とハラスメントの再発防止
⑤ 機械学習法を用いた脊髄損傷後の歩行予後予測

【セッション7】-ポスターセッション 座長： 川越 厚 財団選考委員

≪2023年度助成研究 5題≫

- ① 孤独・社会的孤立が高齢者の予防医療・健康関連QOLに及ぼす影響の検討
② 終末期がん医療における感染症診療の現状に応じた抗菌薬適正使用支援
③ 社会経済的地位が低い高齢者の地域イベント参加を促す情報伝達方策の検討
④ 晩婚化・少子化対策としての若年女性・男性の妊孕性に対する意識変容関連因子の解析
⑤ 認知症患者にやさしい街づくりのためのデザインの研究

4. パネルディスカッション『分断をつなぐヘルスリサーチ』

パネリスト： 國井 修 氏

(公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金・CEO)

新福 洋子 氏

(広島大学大学院医学系研究科・国際保健看護学・教授)

清田 明宏 氏

(国連パレスチナ難民救済事業機関： UNRWA保健局長)

司会・進行： 中村理事長

5. 研究成果発表

【セッション8】-ホールセッション 座長： 矢作 恒雄 財団選考委員

≪2025年度一般演題 1題≫

- ① 防災意識尺度の多言語化と多文化共生用防災教材の開発

≪2023年度助成研究 4題≫

- ② Global Burden of Disease study (GBD) 解析に基づく感染症疾病負荷の国際比較
③ 医師の曖昧さ耐性とその関連要因の解明
④ 人工知能技術応用による災害後の循環器疾患予測モデルの開発

6. 第34回（2025年度）研究助成選考経過・結果発表：

山崎 力 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 選考委員長、理事

7. 第34回（2025年度）研究助成贈呈式 ： 中村 安秀 理事長
8. 第34回（2025年度）研究助成受賞者発表 ： 山崎 力 選考委員長（講評）

《受賞研究テーマ－国際共同研究》

- ① 日本とフィンランドにおける児童のメンタルヘルス予防介入の国際検証
 - ② 喘息妊婦における医薬品使用の新生児アウトカムに関する安全性
 - ③ 父母の育児環境を支える政策の再設計に向けた日米比較研究
 - ④ うがい液検体を基盤とした口腔癌罹患に関わる口腔細菌叢とエピゲノム異常に関する台湾との2国間比較研究
 - ⑤ データ品質とプライバシー保護を両立する国際医療AI研究憲章の設計
 - ⑥ 変形性股関節症患者における日常生活での関節負荷適正化のためのジャストインタイム適応型介入の開発
 - ⑦ 自信に満ちた育児のスタートを支援するために ～日本における医療スタッフ教育プログラムの有用性～
 - ⑧ 高齢者の行動変容・習慣化を促す対話型AIによるフレイルの早期発見・予防
- 以上8題

《受賞研究テーマ－国内共同研究-年齢制限なし》

- ① 法医学解剖検体の利活用による高感度ストレス因子の同定
- ② 新規指標DASCを用いた抗菌薬適正使用評価戦略の構築：全国サーベイランスデータによる検証
- ③ 民間救急ヘリコプター搬送が高齢者の大腿骨近位部骨折患者の治療経過に与える影響と費用対効果の検証：後ろ向きコホートデータを用いた前後比較研究
- ④ 観光業従事者のレプトスピラ感染についての疫学調査
- ⑤ NLRP3インフラマソーム抑制によるクロザピン誘発性無顆粒球症の発症予防
- ⑥ デジタル遠隔監視を利用した腹膜透析患者における在宅治療を基盤とした地域包括ケアの構築
- ⑦ 小児・AYA世代がん患者、家族の「PPI体系化基礎モデル」に基づいたPPI推進戦略の立案
- ⑧ 中長期在留外国人の公的保険医療アクセスに関する研究
- ⑨ 重症心身障害者施設における多職種協働型安全支援モデルの構築
- ⑩ 小児医療DX基盤を活用した子育て世代養育者支援システムの研究開発
- ⑪ 磁性ナノ粒子を用いた簡易低コスト微生物・タンパク質IoTセンサの開発とヘルスケアへの応用
- ⑫ 遺伝性消化器腫瘍診療における多施設連携ネットワークモデルの開発
- ⑬ 非侵襲貼付センサを用いた在宅Auto Triageシステムの開発と検証
- ⑭ 災害時健康危機管理支援活動の定量化に向けたシステム開発と社会実装を目指した研究

以上14題

《受賞研究テーマ－国内共同研究-満39歳以下》

- ① 間質性肺炎（IPF/PPF）患者が重視する治療アウトカム：ヴィネット法を用いた選好の解明
- ② 人工股関節全置換術後機能回復予測と個別化リハビリ支援

- ③ 遺伝性乳癌卵巣癌症候群の情報提供と遺伝子検査の普及の実態
 - ④ マイコプラズマ肺炎菌の分子疫学解析と臨床情報の統合解析
 - ⑤ 悪性脳腫瘍患者の自分らしさに基づく意思決定支援方略の探求
 - ⑥ 生物学的老化指標を用いた日本人HIV感染者のQOL改善因子探索
 - ⑦ 農業集落排水における薬剤耐性菌の可視化と地域保健につなげる環境バイオマーカー活用研究
 - ⑧ COVID-19の流行における時空間的動態と社会的要因に関する疫学研究
 - ⑨ 角膜内皮疾患治療における再生医療等製品導入の包括的医療経済評価研究
 - ⑩ 末期腎不全患者における保存的腎臓療法と腎代替療法との生活の質の比較
- 以上10題

9. 情報交換会

以上

(3) 財団活動の実績と課題の把握

過去 30 年間の財団活動の実績を可視化するとともに、現状分析を行い新たな財団活動の指針とすべくホームページに掲載していたアンケート並びに研究助成応募書類に基づき、データ取りまとめ作業を行った。今後は更にアンケート母数を増やすなどを行い、精緻なデータを収集することによって、財団の今後の事業活動の指針に資する資料として更に検討を加える必要がある。

(4) 広報活動の見直し

本計画については、事務局体制が整わず 2026 年度に持ち越して実施することとした。

(5) 寄附金募集活動

出捐企業であるファイザー株式会社からの指定寄附金 2,500 万円及び個人から 11 万円の寄附金があった。

3 運営に関する事項

(1) 評議員・理事・監事・選考委員及びその他委員に関する事項（2026 年 3 月 31 日現在）

< 評議員 >

役 職	氏 名	所 属
評議員	姉川 知史	名古屋商科大学 教授／慶應義塾大学 名誉教授
評議員	梅田 一郎	一般社団法人新時代戦略研究所 理事長
評議員	河北 博文	社会医療法人河北医療財団 理事長
評議員	黒川 達夫	一般社団法人日本バイオンミラー協議会 理事長
評議員	島内 憲夫	順天堂大学 名誉教授／広島国際大学 客員教授
評議員	西村 周三	京都大学 名誉教授

評議員	平井 愛山	千葉県循環器病センター臨床研修アドバイザー／ 日本慢性疾患重症化予防学会 代表理事
評議員	平野 かよ子	宮崎県立看護大学 名誉教授

以上 8 名。

<理事・監事>

役 職	氏 名	所 属
理事長	中村 安秀	公益社団法人日本 WHO 協会 理事長
常務理事	鈴木 修	税理士／日本税務会計学会 常任委員／高崎商科大学 商学 部長・教授／（公財）公益法人協会 専門委員・主任研究員
理事	伊藤 由希子	慶応義塾大学経営学部 教授
理事	坂巻 弘之	神奈川県立保健福祉大学 シニアフェロー／一般社団法人 医薬 政策企画 P-Cubed 代表理事
理事	佐藤 敏信	久留米大学 特命教授（医療政策担当）
理事	辻 篤子	科学ジャーナリスト
理事	橋爪 真弘	東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学 教授
理事	松岡 悦子	奈良女子大学 名誉教授
理事	山崎 力	国際医療福祉大学大学院社会医学研究分野 教授
監事	宇都宮 啓	公益財団法人日本建築衛生管理教育センター 理事長／ 慶応義塾大学 客員教授
監事	山田 章雄	山田章雄公認会計士事務所／公認会計士

以上、理事 9 名、監事 2 名。

<選考委員>

役 職	氏 名	所 属
委員長	山崎 力	国際医療福祉大学大学院社会医学研究分野 教授
委員	姉川 知史	名古屋商科大学 教授／慶応義塾大学 名誉教授
委員	荒木 裕人	厚生労働省大臣官房 厚生科学課 課長
委員	大木 幸子	杏林大学保健学部看護学科 教授
委員	梶井 英治	茨城県西部メディカルセンター 病院長
委員	川越 厚	在宅ホスピス研究所パリアン 代表／森の診療所 医師
委員	坂巻 弘之	神奈川県立保健福祉大学 シニアフェロー／一般社団法人 医薬 政策企画 P-Cubed 代表理事
委員	佐藤 雄一郎	東京学芸大学教育学部 教授

委員	平野 かよ子	宮崎県立看護大学 名誉教授
委員	矢作 恒雄	慶應義塾大学 名誉教授

以上、10 名。

<ヘルスリサーチワークショップ幹事・世話人>

役 職	氏 名	所 属
代表幹事	山崎 元靖	神奈川県健康医療局 医務担当部長
幹事	永森 志織	NPO 法人難病支援ネット・ジャパン 理事
幹事	山岡 淳	神戸大学経済学研究科 准教授
世話人	池田 誠	Vice President, SMP Laboratories Japan Co., Ltd.
世話人	中山 俊	アンター株式会社 代表取締役／東京科学大学 客員准教授
世話人	花木 奈央	大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学 特任助教
世話人	金城 謙太郎	帝京大学大学院公衆衛生学研究科 特任教授／ 金城医院 院長
世話人	小島 健一	鳥飼総合法律事務所 パートナー弁護士
世話人	小林 美穂子	東邦大学看護学部 助教

以上 9 名。

(2) 評議員会・理事会・監査会・選考委員会に関する事項

[1] 評議員会

- ① 第 18 回 2025 年 6 月 17 日（火）15 時 00 分～17 時 00 分
ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル本館 5 階『こすもす』）
第 1 号議案 第 35 期（2024 年度）決算書類承認の件
報告事項 （1）第 35 期（2024 年度）事業報告
（2）新選考委員選任の件
以上 1 案が、原案のとおり承認可決された。

- ② 第 19 回（臨時）2025 年 8 月 22 日（金）～ 28 日（木）
決議の省略にて行う
「『理事、監事及び評議員に対する報酬等支給基準規程』の一部改正の件」が承認可決された。

[2] 理事会

- ① 第 50 回 2025 年 5 月 27 日（火）13 時 00 分～15 時 00 分

ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル本館 42 階『御岳』）

第 1 号議案 第 35 期（2024 年度）事業報告の件

第 2 号議案 第 35 期（2024 年度）財務諸表の件

第 3 号議案 選考委員選任の件

第 4 号議案 定時評議員会の開催日時、場所、目的である事項等の件

報告事項 （1）代表理事職務執行

（2）常務理事職務執行

以上 4 案が、原案のとおり承認可決された。

② 第 51 回（臨時）2025 年 8 月 18 日（金）～ 22 日（金）

決議の省略にて行う

「『理事、監事及び評議員に対する報酬等支給基準規程』の一部改正の件」が承認可決された。

③ 第 52 回 2026 年 3 月 23 日（月）10 時 00 分～12 時 00 分

ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル南館 4 階『なつめ』）

第 1 号議案 第 37 期（2026 年度）事業計画の件

第 2 号議案 第 37 期（2026 年度）収支予算、資金調達及び設備投資の見込みの件

第 3 号議案 事務局長選任の件

第 4 号議案 役員賠償責任保険継続の件

報告事項 業務執行理事職務執行状況

[3] 監査会

第 35 期監事監査 2025 年 5 月 19 日（月）10 時 00 分～12 時 00 分

会場：ファイザー株式会社 18 階『18E03』会議室）

（1）事前に送られた「第 35 期事業報告並びに決算報告書（案）」について監事より指摘事項の説明

（2）監事からの質疑と理事長、常務理事、事務局長による応答

（3）監事からの指摘事項の修正

以上 3 項目が実施された。

[4] 選考委員会

① 第 88 回 2025 年 10 月 2 日（木）15 時 00 分～18 時 00 分

ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル本館 42 階『武蔵』）

第 1 号議案 第 34 回（2025 年度）研究助成案件の選考に関する件

第 2 号議案 第 34 回（2025 年度）一般演題 応募者選考に関する件

第 3 号議案 第 32 回（2025 年度）ヘルスリサーチフォーラム・プログラムに関する件

その他報告等

事前の書面審査に基づき、本選考が行われ、本年度の研究助成候補案件並びに一般演題採択案件が決定された。また、第 32 回（2025 年度）ヘルスリサーチフォーラムのプログラム概要が決議された。

- ② 第 89 回 2026 年 2 月 19 日（木）13 時 00 分～15 時 00 分
ハイブリッド会議（中継会場：京王プラザホテル 本館 42 階『御岳』）
第 1 号議案 第 35 回（2026 年度）研究助成公募内容・選考方法等の件
第 2 号議案 第 33 回（2026 年度）ヘルスリサーチフォーラムの件
その他報告等
第 2 号議案では、2026 年度ヘルスリサーチフォーラムの概要が決議された。本年度フォーラム
テーマについては、更に検討を行い最終的なテーマとすることとなった。

（3）オフィスに関する事項（2026 年 3 月 31 日現在）

ファイザー株式会社本社ビル（渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル）21 階にて、
36 平方メートルを賃借している。必要経費以外は全額ファイザー株式会社が負担している。

（4）登記・届出に関する事項

- [1] 2025年6月30日に、第35期（2024年4月～2025年3月度）事業報告・貸借対照表・
正味財産増減計算書・財産目録等を内閣府(内閣総理大臣)にオンラインにて提出した。
- [2] 第32回（2025年度）ヘルスリサーチフォーラム開催に際し、2025年11月17日に厚生労働
省後援の名義使用を申請し、2025年11月28日に許可を得た。
- [3] 2026年3月31日に、第37期（2026年度）事業計画、収支予算書を内閣府（内閣総理
大臣）にオンラインにて提出した。

◇ 法人の運営体制の充実を図るための取組

1 外部理事・外部監事の設置への対応

令和 7 年 4 月に施行された公益認定法が求める外部理事・外部監事の設置に関しては、業
務執行理事以外の理事 7 名全員が外部理事であり、監事 2 名全員が外部監事の体制となってい
る。引き続き、公益認定法の趣旨を踏まえた選任となるように努めてまいりたい。

2 法令等遵守体制、ガバナンスの自主的・自律的な取組

公益法人制度改革に伴う制度の見直しへ適切に対応する観点から、内閣府から提供されてい
る改正認定法の資料に基づき、業務執行理事及び事務局職員との間で、改正内容を確認し、
共有するとともに、理事会において、公益認定法における公益目的事業の意義、財務規律等
に関する説明を通して各理事の意識の醸成を図り、今般の公益認定法の改正の趣旨を踏まえた法
人運営に努めている。

なお、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、附属明細書は作成しない。

以上